第 6 回アジア未来会議プレカンファランス報告

「ポストコロナ時代における国際関係―台湾から見るアジア」

SGRA 代表　今西淳子

前回の第 5 回アジア未来会議は、2020 年 1 月 9 日から 13 日の 4 日間、21 ヵ国から 294 名の登録参加者を得てフィリピンで開催されました。12 日午後、スタディツアーの 1 グループがタガイタイ観光を楽しんでいたまさにその時タール火山が噴火し、火山灰は会議場となったマニラ市南郊のアラバンにも達しました。帰国日、マニラ国際空港では欠航や遅れが相次ぎ、200 名以上の参加者に影響を及ぼし、70 名以上が会議場のホテルで延泊、それ以上が空港ターミナルや市内のホテルで長時間の待機を余儀なくされました。当時は大変な災難に遭遇したと思っていましたが、全世界を震撼させた新型コロナウイルスまん延防止のための武漢都市封鎖が 1 月 23 日でしたらから、今から思えば、この時に国際会議を開催できたのは運が良かったというべきでしょう。

第 6 回アジア未来会議は、当初、2021 年 8 月に台北市で開催する予定でした。テーマは「アジアを創る、未来へ繋ぐ―みんなの問題、みんなで解決」と決まり、共催の中国文化大学の徐興慶学長がマニラ会議の閉会式で台湾開催を宣言、2020 年 2 月 24 日には渥美財団の担当チームが訪台し、会場、宿泊所、宴会場を視察して文化大学で最初の会議を開催しました。その頃には殆どの人がマスクを着用し、有名な台湾のマスク販売管理システムも実施されていましたが、まさかその後台湾と日本の往来が全くできなくなり、それが 1 年半以上も続き、未だ終息の目途もたたない状況に陥るとは誰も予想だにしませんでした。

その後、コロナ禍中で発達したオンライン会議により、中国文化大学と渥美財団は定期的に連絡を取り合い、文化大学だけでなく他大学の先生方にもご協力いただく台湾実行委員会が立ち上がり、準備が始まりました。感染防止優等生の台湾では、300 人規模の会議開催に問題はないと思われましたが、2021 年 8 月に海外の参加者が入国するのは難しいことが予想され、 1 年延期を 12 月の実行委員会で決定し、ホームページや一斉メールなどで参加者に伝えました。既に優秀論文賞と奨学金の選考対象となる論文募集（AFC#6A）が締め切られていたので、その選考は予定通りに進め、2021 年には再度、論文募集と選考（AFC#6B）を実施することにしました。優秀論文集も 2 回発行することになります。また、台湾実行委員会による台湾特別優秀論文賞も設立されました。

さらに、2021 年 8 月にプレカンファランスを開催することを決めました。第 6 回アジア未来会議の会場となる中国文化大学で、午前中は 500 人規模の基調講演とシンポジウムを開催し、台湾の会場と世界各地からの参加者をオンラインで結ぶというハイブリッド形式です。午後は台湾特別優秀論文口頭発表は対面で、AFC 優秀論文口頭発表はオンラインで計画されました。しかしながら、2021 年 5 月に台湾でも感染が急拡大、1 日の新規感染者数が 500 人を超える日もあり、5 月 19 日から台

湾全域で感染警戒レベルの厳しい感染措置が取られ、住民の生活は一変しました。台湾の大学では夏休みの間に外部者を招待するイベントの開催が難しくなりました。

そこで、プレカンファランスは完全オンライン形式へ変更することにしました。諸々検討した結果、東京で渥美財団がホストする Zoom のプラットフォームで開催し、午前中の基調講演とシンポジウムは同時通訳設備機能のある Zoom ウェビナー、午後の優秀論文の口頭発表はブレイクアウトルーム機能を利用できる Zoom 会議を利用することに決めました。渥美財団では 2020 年 6 月以来、全ての交流事業をオンラインあるいはハイブリッド形式で進めてきたので、失敗も含めてかなりの経験を積んでいましたが、このような規模の企画は初めてです。

接続テストは、ご挨拶いただく先生方、講師と討論者 5 名、同時通訳の会場となる中国文化大学、中英、中日の同時通訳者 4 名、AFC 優秀論文口頭発表者 20 名、台湾特別優秀論文口頭発表者 5 名と 4 日間かけて実施しました。当日、先生方には 1 時間前には接続していただきました。午前 10 時から午後 4 時 30 分までの 6 時間半の間、大きな技術的トラブルがなかったことが一番安堵したことです。

＊　＊　＊

2021 年 8 月 26 日（木）台湾時間午前 10 時、第 6 回アジア未来会議プレカンファランスが定刻通りに中国文化大学の林孟蓉先生の司会で始まりました。台湾実行委員会によるプロモーションのおかげで、Zoom ウェビナーへの参加登録は 15 カ国から 669 名、その半数が台湾居住者です。最初にアジア未来会議の明石康会長から開会の挨拶をいただきました。

基調講演は中央研究院の呉玉山院士による「アジアは何処に向かうのか？：疾病管理が政治に巻き込まれた時」というタイトルの非常に時宜を得た刺激的なお話でした。呉先生は「流行性疾病を管理することは国際的な協力行動を刺激するはずだったのに、新型コロナウイルスのパンデミックでは、疾病の起源を巡る責任のなすり合い、ワクチン・ナショナリズム・ワクチン外交など一連の国際紛争を経験した。紛争によって協力関係が抑制される現象は、パンデミック前から存在した国際システムの中の新冷戦と関係している。新冷戦は国際間における大国の権力の移り変わりと経済危機に起因する右派ポピュリズムの台頭に根源があり、その勢いは既に根深く、紛争の渦に吸収されてしまっている」と分析しました。

そして「どうすればこの局面の一層の悪化を阻止できるのか。まず防疫を国際政治競争から切り離して独立した領域とし、新たな冷戦に感染させないこと、第 2 に防疫とその他の協力可能なセクターが一致して、政治的対立の融和をはかること、第 3 は抜本的措置で、新たな冷戦が深化し続けるのを阻止することである。これらがうまくいかなければ、深刻な結果となるだろう」と警鐘を鳴らしました。

第 2 部のシンポジウムでは、徐興慶・文化大学学長がモデレーターを務め、松田康博・東京大学教授、李明・政治大学教授、ケヴィン・ヴィラノバ・フィリピン大学准教授、徐遵慈・中華経済研究院台湾東南アジア国家協会研究センター主任がコメントし、ワクチンパスポートの難しさ、感染抑え込みに成功した台湾のユニークな立場、東南アジア諸国連合（ASEAN）が中心となった対策の必要性、本当の負け組は発展途上国であることなどが提起されました。講演概要と発表資料は、下記リンクよりプロシーディングスをご覧ください。
http://www.aisf.or.jp/AFC/2021/wp-content/themes/afc2021/AFC6Pre-ConferenceProceedingsLite.pdf

昼食後、台湾時間午後 1 時から第 3 部の優秀論文賞授与式と口頭発表が始まりました。授与式の司会は元渥美奨学生のソンヤ・デールさんです。同時通訳はなく英語だけで進められましたが、チャットでの「おしゃべり」が奨励され、午前中とは一変して和やかな雰囲気になりました。明石会長に再びお出ましいただき、受賞者への祝辞が述べられ、平川均・アジア未来会議学術委員長から選考の方針と経緯についての説明がありました。

その後、3 つの分科会室（ブレイクアウトルーム）で 6 セッションに分かれて 20 本の AFC#6A 優秀論文と 5 本の台湾特別優秀論文の口頭発表が行われました。各セッションでは 2 人の座長が進行を務め、4 人の発表（台湾特別優秀論文のセッションは 5 人）が行われました。アジア未来会議は国際的かつ学際的なアプローチを目指しており、各セッションは発表者が投稿時に選んだ「環境」「イノベーション」「平和」「教育」などのトピックに基づいて調整され、学術学会とは趣を異にした多角的で活発な議論が展開されました。どの部屋にも 20〜30 名が参加し、全体で 100 名を超える盛況でした。

優秀論文は学術委員会によって事前に選考されています。2020 年 9 月 20 日までに発表要旨、2021 年 3 月 31 日までにフルペーパーがオンライン投稿された 112 本の論文を 12 のグループに分け、55 名の審査員によって査読しました。ひとつのグループを 5 名の審査員が、次の 7 つの指針に沿って審査しました。投稿規定に反するものはマイナス点をつけました。(1)論文のテーマが会議のテーマ「アジアを創る、未来へ繋ぐ－みんなの問題、みんなで解決」と適合しているか(2)論文の構成が分かりやすいか(3)明確に説明され説得力があるか(4)独自性(5)国際性(6)学際性(7)総合的にみて推薦するか。各審査員はグループの中の 9〜10 本の論文から 2 本を推薦し、集計の結果、上位 20 本を優秀論文と決定しました。AFC#6A 優秀論文リストは下記リンクからご覧いただけます。
http://www.aisf.or.jp/AFC/2021/files/2021/06/AFC6A-Best-Paper.pdf

台湾実行委員会による台湾特別優秀論文も同じプロセスで選考されました。リストは下記リンクからご覧いただけます。
http://www.aisf.or.jp/AFC/2021/files/2021/06/AFC6A-Taiwan-Best-Paper.pdf

台湾時間午後 4 時 20 分に閉会式が始まりました。今西淳子・アジア未来会議実行委員長の簡単な報告のあと、陳姿菁・開南大学准教授が台湾ラクーン（渥美奨学生同窓会）を代表して、渥美財団とアジア未来会議の紹介をした後、2022 年 8 月 26 日から 30 日にかけて台北市で開催する第 6 回アジア未来会議へ招待しました。残念ながらオンライン会議なので懇親会はできませんでしたが、参加者は来年台北市での再会を誓って、初めてオンラインで開催した第 6 回アジア未来会議プレカンファランスは成功裡に終了しました。

第 6 回アジア未来会議プレカンファランス「ポストコロナ時代における国際関係―台湾から見るアジア」は、（公財）渥美国際交流財団関口グローバル研究会(SGRA)主催、中国文化大学の共催、（公財）日本台湾交流協会の後援、（公財）高橋産業経済研究財団の助成、台湾大学日本研究センターと台中科技大学日本研究センターの協力、中鹿営造（股）と日商良基注入営造（股）の協賛をいただきました。

運営にあたっては、台湾実行委員会と協力しながら、台湾出身の元渥美奨学生が中心となった AFC 実行委員会と、世界各地の元渥美奨学生とフィリピン SGRA のメンバーによる AFC 学術審査委員会が組織され、企画・実施、優秀賞の選考、写真撮影まであらゆる業務を担当しました。午前中の基調講演とシンポジウムは台湾実行委員会、午後の優秀論文の口頭発表と閉会式は AFC 実行委員会が担当しました。

500 名を超える参加者の皆さん、開催のためにご支援くださった皆さん、さまざまな面でボランティアで協力くださった皆さんのおかげで、第 6 回アジア未来会議プレカンファランスを成功裡に実施することができましたことを、心より感謝申し上げます。

アジア未来会議は、国際的かつ学際的なアプローチを基本として、グローバル化に伴う様々な問題を、科学技術の開発や経営分析だけでなく、環境、政治、教育、芸術、文化など、社会のあらゆる次元において多面的に検討する場を提供することを目指しています。SGRA 会員だけでなく、日本に留学し世界各地の大学等で教鞭をとっている研究者、その学生、そして日本やアジアに興味のある若手・中堅の研究者が一堂に集まり、知識・情報・意見・文化等の交流・発表の場を提供するために、趣旨に賛同してくださる諸機関のご支援とご協力を得て開催するものです。

第 6 回アジア未来会議は、2022 年 8 月 26 日(金)から 30 日(火)まで、台湾の中国文化大学と共催で、台北市で開催します。皆様のご支援、ご協力、そして何よりもご参加をお待ちしています。

第 6 回アジア未来会議の写真（ハイライト）
http://www.aisf.or.jp/sgra/wp-content/uploads/2021/09/AFC6PreConferencePhotos.pdf

第 6 回アジア未来会議のフィードバック集計
http://www.aisf.or.jp/sgra/wp-content/uploads/2021/09/AFC6PreConferenceFeedback.pdf

第 6 回アジア未来会議プレカンファランスチラシ
http://www.aisf.or.jp/AFC/2021/files/2021/07/6thAFC_PreConference_Poster_light.png